

## 御挨拶

常任指揮者 佐々木 基之

もう3回目の定演の指揮をやることになりました。夏合宿も3回目を終って、合唱団の地力の向上に驚きました。学生合唱団の宿命は毎年度メンバーが若干交代することではありますが、最初から分離唱の訓練を受けて先輩のハーモニーの中で育ったためか、新人の進歩は特に著しいものがあります。数回の練習で三分の二は譜面を離れていることや、今春の東京公演以来、一度も歌わなかったフォーレのレクイエムを夏合宿で合唱してみても公演の時よりも立派に歌えたこと等、私の予想以上の成果を見せてもらって、非常に嬉しく思いました。

曲目は、今回も讃美歌をはじめ通俗名曲ですが、皆さんのお心にどう響くか楽しみです。団員と私と心をつなげて音楽に奉仕いたします。有難うございました。

## 音の美しさと迫力感

合唱団顧問

この春から、牧野先生の後を継いで合唱団顧問という大役を任せられることになり、7月の小演奏会と夏の合宿の時に二度ばかり演奏を聞いた。恥ずかしい話であるが、それまで佐々木先生の御指導による「分離唱」というものについて、私は全く無知であった。必然的に、分離唱による合唱とはどういうものか、という点に関心が向かったが、それに答えてくれたのは、合唱団諸君の見事なハーモニーであった。考えてみれば、作りあげられた音が美しい響きをもっているというのは、合唱にとって最も基本的に要求される条件の一つであって、そのことを強調されて驚く方がおかしいというものかもしれない。時には、迫力に欠けるといった批判も聞かぬではないが、私自身は、音の美しさと迫力感とは必ずしも対立するものではないと思っている。

梨大合唱団の一層の健闘に期待する。

### 山梨大学合唱団第三回東京公演

指揮 佐々木 基之

1976年3月12日(金) PM 7:00

新宿西口 朝日生命ホール